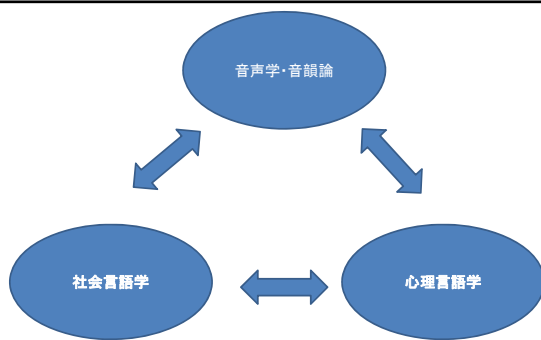


「無アクセント方言が共通語化する過程における音韻現象と音声的实现」 研究プロジェクトの概要

宇都木 昭(筑波大学)

科研費(基盤C)「無アクセント方言が共通語化する過程における音韻現象と音声的实现」

- 期間: 2012年度～2014年度
- 研究代表者: 宇都木昭(筑波大学)
- 研究分担者: 佐々木冠(札幌学院大学)
五十嵐陽介(広島大学)



近年のいくつかの論点:

- 変異を音韻論でどう捉えるか? : 最適性理論 vs. Exemplar theory
- 第二言語獲得と第二方言獲得 (second dialect acquisition)

長期的な研究の方向

- 変化しつつある言語からの理論への貢献
 - 変化の途上において何が起きているか?
 - それが理論に対してどういう示唆を持つか?

Cf.

- ニュージーランド英語における母音のnear merger (Jen Hay, Paul Warrenらの一連の研究)

本研究プロジェクトについて(1)

- 茨城県
 - 伝統方言は無アクセント
 - 共通語圏に地理的に近い / 共通語化が著しい
 - 韻律面での変化をみることの意義
 - しかし、茨城の伝統方言の韻律はほとんど明らかにされていない
- まずは老年層から

本研究プロジェクトについて(2)

- 計画(申請書に書いたこと)
 - (将来的な社会言語学・心理言語学との統合を意識しつつ) 音声学・音韻論的な研究を行う
 - 世代
 - 老年層(変化をみる上での参照点として)
 - 若年層(伝統方言と共通語のはさま)
 - 扱う現象
 - 韻律
 - 分節音韻論

